

HEART2019

2020年2月13日(木)～3月1日(日)
休館日 2月17日(月)

今年13回目を迎えるHEARTは、創始以来73年の歴史を誇る山口県美術展覧会を核として開催いたします。会期中は、美術館(美術)と街(日常生活)をつなぐためのイベントを企画し、「ものづくり」とそれを通じた「コミュニケーション」の楽しさや大切さを伝えていきます。



第73回 山口県美術展覧会

2020年2月13日(木)～3月1日(日)
休館日 2月17日(月)

ジャンルの枠などの制限がなく、自由な表現の作品が魅力の山口県美展。展示室いっぱいの創作意欲あふれる作品と共に、作家ご本人が制作の秘密を明かすギャラリートーク「自作を語る」や、県美展作家たちの作品を販売するコーナー「アート・マーケット」もお楽しみください。

詳しくは、県美展要項が美術館ホームページをご覧ください。

観覧料 一般500(400)円 学生400(300)円

- ※()内は20名以上の団体料金。
- ※70歳以上および18歳以下の方、中等教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍する方等は無料。
- ※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。

審査員 岩崎貴宏(美術作家)

椿 昇(現代美術作家、京都造形芸術大学教授)
鷲田めるろ(キュレーター)

特別展示 昨年度の大賞受賞者、ピピリ ロベルト氏による新作を展示します。



第72回山口県美術展覧会大賞受賞作品
ピピリ ロベルト(山口市)
《榎野川沿いのイノシシの行進》

i 館内インフォメーション

シュシュ カフェデュムゼ

CHOU CHOU café du musée オープン!

「ヨーロッパ絵画 美の400年」の開幕とともにオープンいたしました。CHOU CHOU自慢のタルトやシフォンをはじめ、オムライスなどのランチメニューや、展覧会のテーマに合わせた限定メニューも多数をご用意しております。

ご友人やご家族と作品の感想を話しながら美味しいスイーツやランチを楽しんでください。お待ちしております。



2019 - 2020

schedule

山口県立美術館 2019年度年間スケジュール

	展示室 A	展示室 B	展示室 C	展示室 D	展示室 E	展示室 F
9						
10	9/3(火)～10/22(火・祝) 吉村芳生展	9/3(火)～10/22(火・祝) 松田正平 SHO TIME!	9/3(火)～10/22(火・祝) 花鳥の楽園	特別展 9/3(火)～10/22(火・祝) ヨーロッパ絵画 美の400年 —珠玉の東京富士美術館コレクション— ファーストマンデー 10/7		
11		特別展 11/2(土)～12/8(日) 雪舟の仏画 —初公開の《騎獅文殊・黄初平・張果老図》を中心に—		特別展 11/2(土)～12/22(日) 没後90年記念 岸田劉生展 ファーストマンデー 11/4, 12/2		
12		12/10(火)～12/22(日) 山水長巻映像	12/10(火)～12/22(日) 日本画の作られ方 模本・縮図・下絵			
1	12/10(火)～12/22(日) 2/13(木)～3/29(日) 木村伊兵衛と 福田勝治					全館休館 [12/23(水)～11/1(金)]
2		2/13(木)～3/29(日) 風景を描く	2/13(木)～3/29(日) 雲谷派名品選	2/13(木)～3/1(日) 第73回 山口県美術展覧会		
3						
4				特別展 4/7(火)～6/7(日) ハマスホイとデンマーク絵画		

Information

■休館日

月曜日(祝日・休日の場合は開館)
※ただし、ファーストマンデー 特別展開催中の第1月曜日は開館。
展示替期間 10月23日(水)～11月1日(金)、12月23日(月)～2020年2月12日(水)

■開館時間

9:00～17:00(入館は16:30まで)

■料金

コレクション展:一般300(240)円 学生200(160)円
※()内は20名以上の団体料金。
※18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学する生徒は無料。
※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。
特別展:別途定めた料金



山口県立美術館
Yamaguchi Prefectural Art Museum
〒753-0089 山口県山口市龜山町3-1
TEL: 083-925-7788 FAX: 083-925-7790
https://www.yma-web.jp/

f 美術館情報をFacebookで紹介しています。

Yamaguchi Prefectural Art Museum

132

Contents

コレクション展
木村伊兵衛と福田勝治

特別展
没後90年記念 岸田劉生展

雪舟の仏画

ハマスホイとデンマーク絵画

第73回山口県美術展覧会

館内インフォメーション

ミュージアム・カフェ

年間スケジュール



福田勝治 《佐藤美子》1952年 山口県立美術館蔵

山口県立美術館ニュース「天花」

天花

TENGE

Collection

コレクション展

「木村伊兵衛と福田勝治」

2019 12/10 四 - 2020 3/29 日

表紙作品解説

福田勝治 (1899 - 1991)

《佐藤美子》1952年 ゼラチン・シルヴァー・プリント

山口県立美術館蔵

「佐藤美子さん / Mrs. Sato, vocalist」——1952年、写真雑誌『カメラ』10月号に、この作品が掲載された時のタイトルである。「佐藤美子さん」とは、戦前から「カルメンお美」の愛称で知られたオペラ歌手。明治42年(1909)、日本人の父とフランス人の母との間に生まれ、昭和3年(1928)からフランスに4年間留学。帰国後「カルメン」の日本初演で一躍名を馳せた。

「全然そんな風には見えない……」と思った方もいらっしゃると思う。実は、この写真が掲載された頁の左側には、和装の佐藤さんとは似ても似つかぬ洋装の佐藤さんが紹介されていて、いかにもオペラ歌手「カルメンお美」を髣髴させるバタ臭い美しさなのだが、かたや、右頁のこの粋な縞模様の着物を着た佐藤さんは、もうどう見ても、鼻の下をのぼした輩がいくら言い寄っても隙を見せない「長唄の女師匠」にしか見えないのだ(ちょっと妄想を膨らませすぎたか……)。

戦前から女性ポートレートで大人気だった福田勝治は、戦後もヌードや女性写真の巨匠として活躍していた。しかし、1950年代に入ると「カメラは社会の現実を直視すべきである」という(リアリズム写真運動)のあおりをうけ、「福田が、なぜ美人をきれいに撮ろうとばかりするのか理解に苦しむ」などと批判されるようになっていく。この作品はそんな頃の一枚。

考え抜かれた絶妙なポーズ、緻密な照明で構成された光と影、さりげなく配置された背景。福田の厳格な演出によって、43歳の佐藤美子が「美しい女性」を演じた傑作だと思う。

(副館長兼学芸課長 河野通孝)

没後90年記念

岸田劉生展

孤高なる絵画への道

2019年 11月2日(土)～12月22日(日)

休館日 月曜日(ただし、11月4日、12月2日は開館)



重要文化財 《麗子微笑》
1921年10月15日 油彩・麻布
東京国立博物館
Image: TNM Image Archives

期間限定展示: 11月2日(土)～12月8日(日)



重要文化財 《道路と土手と塀(切通之写生)》[通期展示]
1915年11月5日 油彩・麻布
東京国立近代美術館

観覧料 一般 1,300(1,100)円
シニア・学生 1,100(900)円

※シニアは70歳以上の方、()内は前売りおよび20名以上の団体料金。
※高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。
※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。
※前売り券は、ローンチケット(Lコード62567)、セブンチケットおよび県内各プレイガイドでお求めください。詳細は展覧会ウェブサイトにてご確認ください。

主催 山口県立美術館、毎日新聞社、中国新聞社、tysテレビ山口
協賛 大日本印刷、トヨタ自動車
特別協力 東京国立近代美術館
後援 山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、周南市、周南市教育委員会、一般社団法人山口県観光連盟、山口商工会議所、一般財団法人山口観光コンベンション協会、湯田温泉旅館協同組合、周南文化協会、中国放送

山口会場 株式会社保険ひろば
特別協力 エフエム山口



明治から大正にかけて活躍し、愛娘・麗子の肖像で知られる画家・岸田劉生(1891-1929)。その画業は、日本近代美術の歴史のなかでも、独創的な道を歩むものでした。

明治の先覚者・岸田吟香の第9子として東京・銀座に生を受けた劉生は、雑誌『白樺』に紹介されたゴッホなど後期印象派の作品に衝撃を受け、強烈な色彩と筆致による油彩画を制作するようになります。しかし次第にそうした傾向を離れ、フランス近代美術の後を追うかのような当時の日本の美術界の流れを余所に、16世紀北方ルネサンスの画家・デューラーなどを規範とする、徹底した細密描写による独創的な画風を確立しました。さらに、浮世絵などの東洋美術に「卑近の美」を見出すと、自ら日本画にも取り組んでいきます。そして再び油彩画で新たな道を探求せんとしていた1929年、満州からの帰国の途上、山口県徳山(現:周南市)で客死しました。

本展では、岸田劉生の画業において道標となる作品を中心に、基本的に制作年代順に展示することで、変転を繰り返した人生の歩みとともに、改めてその孤高なる絵画への道をたどります。



《自画像(椿君に贈る自画像)》[通期展示]
1914年5月8日 油彩・麻布
東京都現代美術館



《壺の上に林檎が載っている》[通期展示]
1916年11月3日 油彩・板
東京国立近代美術館

※会期中、作品保護のため一部展示替を行います。
前期: 11月2日(土)～11月24日(日)
後期: 11月26日(火)～12月22日(日)



©しりあがり寿



《村娘之図》[前期展示]
1919年4月13日 水彩、コンテ・紙
下関市立美術館



《竹籠含春》[通期展示]
1923年4月9日 油彩・麻布
個人蔵



《路傍秋晴》[通期展示]
1929年11月 油彩・麻布
吉野石膏株式会社

雪舟の仏画

—初公開の《騎獅文殊・黄初平・張果老図》を中心に—

2019年

11月2日(土)～12月8日(日)

休館日 月曜日(ただし、11月4日、12月2日は開館)

室町時代の水墨画家・雪舟(1420～1506?)は、その若き日において「拙宗」と名乗っていたことが知られています。この拙宗時代の作品は十数点の現存が確認されているのですが、その中でも初期の制作と考えられる作品の多くは、仏画あるいは人物画です。つまり、雪舟が画家として出発した時には仏画や人物画を得意としていたものと考えられるのです。

このたび新たに見出された拙宗時代の作品《騎獅文殊・黄初平・張果老図》は、文殊菩薩図を中幅に、黄初平と張果老という仙人図を脇幅とする三幅対形式の大作です。そしてこれもやはり、拙宗時代の中でも初期に属する作品と判断されるものです。

この展覧会では、《騎獅文殊・黄初平・張果老図》を日本で初めて展示するとともに、拙宗時代の人物画と仏画を一堂に集め、比較することによって、人物画における雪舟の画風形成について考えたいと思います。

観覧料 一般500(400)円 シニア・学生400(300)円

※シニアは70歳以上の方、()内は20名以上の団体料金。
※18歳以下の方、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍する方等は無料。
※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。



雪舟等楊筆(騎獅文殊・黄初平・張果老図) 個人蔵

ハマスホイとデンマーク絵画

2020年

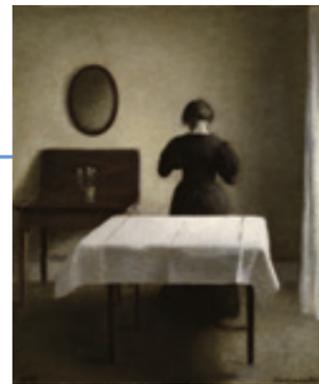
4月7日(火)～6月7日(日)

休館日 月曜日(ただし、5月4日(祝)、6月1日は開館)

北欧の柔らかな光が射し込む静まり返った室内。開け放たれた扉、控えめで上品な家具調度、後ろ向きの女性。

描かれているのは、画家の自宅の室内ですが、生活の痕跡は慎重に消し去られています。音と光が閉じ込められた静謐な世界では、時の流れも止まっているかのようです。独特の詩情が漂う絵の作者は、デンマークを代表する画家、ヴィルヘルム・ハマスホイ(1864-1916)。17世紀のオランダ絵画に影響を受け、静謐な室内表現を得意とすることから、「北欧のフェルメール」とも呼ばれています。

本展は、近年、世界的に評価が高まっているハマスホイの芸術を、西日本で初めて紹介するものです。さらに、これまで日本でほとんど紹介されたことのない、19世紀デンマークの名画も併せてご覧いただけます。珠玉の作品を通じて、北欧の小国が育んだ豊かな芸術文化をたっぴりとご堪能ください。



ヴィルヘルム・ハマスホイ 《室内》
1898年 油彩/カンヴァス
スウェーデン国立美術館
Nationalmuseum, Stockholm/
Photo: Nationalmuseum



ヴィルヘルム・ハマスホイ 《カード・テーブルと鉢植えのある室内、プレスゲーズ25番地》
1910-11年 油彩/カンヴァス
マルムー美術館
Malmö Art Museum, Sweden



ヴィルヘルム・ハマスホイ 《室内一開いた扉、ストランゲーズ30番地》
1905年 油彩/カンヴァス
デーヴィズ・コレクション
The David Collection, Copenhagen